

岩手県感染症週報

平成27年第12週(3月16日～3月22日)

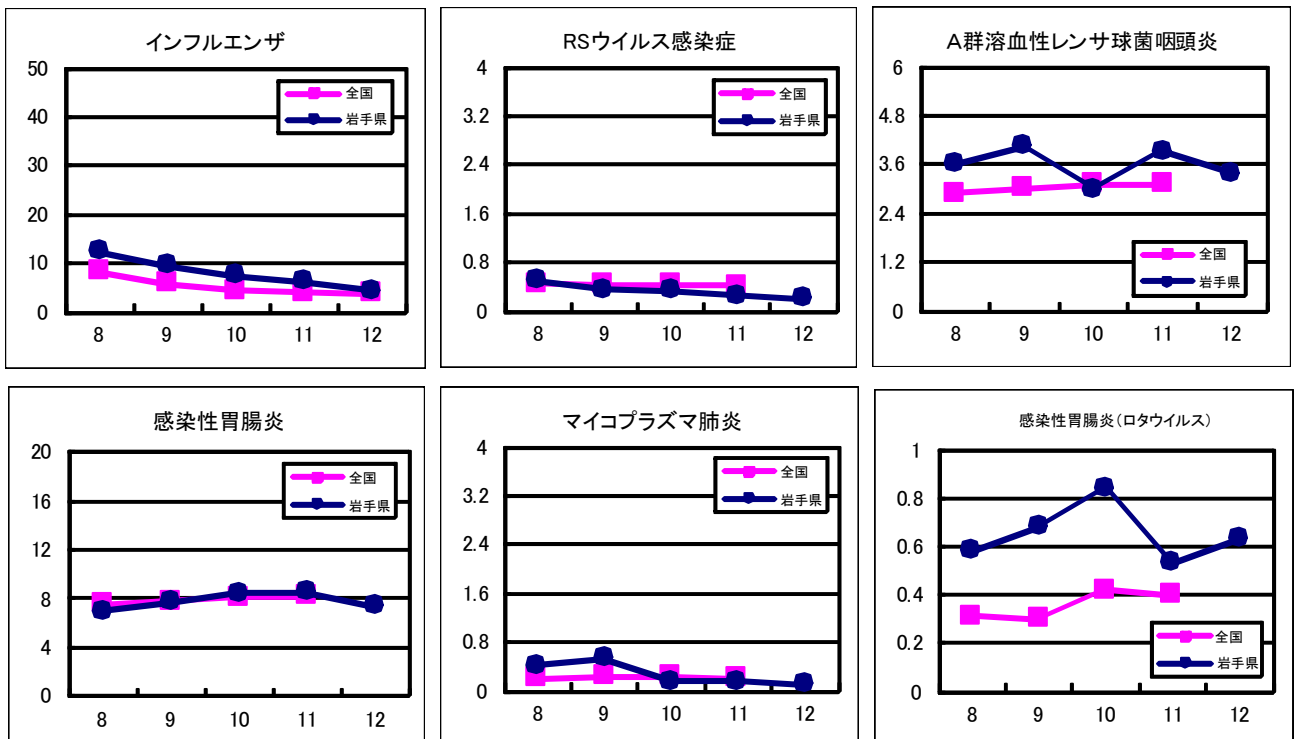
岩手県感染症情報センター

第12週の概要

- 1 類感染症 ・患者発生の報告はありませんでした。
- 2 類感染症 ・結核の報告が2例ありました。潜在性結核の報告はありません。
- 3 類感染症 ・患者発生の報告はありませんでした。
- 4 類感染症 ・患者発生の報告はありませんでした。
- 5 類感染症 (全数把握対象疾患)
 - ・急性脳炎の報告が、盛岡市より1例ありました。原因病原体はA型インフルエンザウイルスです。
 - ・定期の麻疹・風疹ワクチン接種は1歳児と小学就学前の1年間の2回接種となっています。小学校入学準備に、2回目の麻疹・風疹ワクチンを忘れずに。
- 5 類感染症 (定点把握対象疾患)
 - ・溶連菌咽頭炎は、前週より減少しましたが、依然として例年より報告数の多い状況が続いています。地区別では盛岡市、県央および中部地区で、年齢別では、4～6歳に多くなっています。突然の発熱、全身倦怠感、咽頭痛によって発症します。感染後、急性腎炎を併発することがありますので、7～10日間の抗菌薬内服が必要です。感染経路は、ヒトからヒトへの飛沫感染や接触感染ですが、食品を介する経口感染もあるといわれており、食中毒事例も報告されています。予防には、患者との濃厚接触を避けること、うがいや手洗いの励行が重要です。
 - ・感染性胃腸炎は、例年よりやや患者の多い状況が続いています。予防には、石けんと流水を用いた手洗い、患者の汚物の適切な処理、食品の十分な加熱が重要です。

最近の注目疾患 (定点あたり患者数の過去5週の動き)

(疾患によって目盛りのスケールが異なることに注意)



定点把握対象疾患 (過去5週の動き)

※2013年第42週より感染性胃腸炎 (ロタウイルス) が定点把握対象疾病となりました。

(定点あたり患者数)

疾病名	地域	週					流行傾向	
		8	9	10	11	12		
インフルエンザ	岩手県	12.49	9.48	7.42	6.15	4.4	↘	☆
	全国	8.26	5.88	4.32	3.99	3.85		
RSウイルス感染症	岩手県	0.5	0.35	0.33	0.25	0.2	→	☆
	全国	0.45	0.44	0.43	0.41			
咽頭結膜熱	岩手県	0.13	0.1	0.23	0.3	0.3	→	☆
	全国	0.31	0.29	0.32	0.33			
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	岩手県	3.6	4.05	2.98	3.93	3.38	→	☆
	全国	2.88	3.01	3.11	3.12			
感染性胃腸炎	岩手県	6.98	7.73	8.4	8.5	7.38	→	☆
	全国	7.54	7.81	8.07	8.22			
水痘	岩手県	0.43	0.65	0.85	0.78	0.75	→	☆
	全国	0.5	0.45	0.51	0.51			
手足口病	岩手県	0	0.03	0	0	0	→	
	全国	0.3	0.35	0.41	0.44			
伝染性紅斑	岩手県	0.38	0.35	0.18	0.35	0.25	→	☆
	全国	0.3	0.34	0.37	0.39			
突発性発疹	岩手県	0.43	0.48	0.4	0.43	0.43	→	☆
	全国	0.43	0.46	0.46	0.45			
百日咳	岩手県	0	0	0	0	0	→	
	全国	0.01	0.01	0.01	0.01			
ヘルパンギーナ	岩手県	0	0.03	0.03	0	0	→	
	全国	0.02	0.02	0.02	0.03			
流行性耳下腺炎	岩手県	0.15	0.1	0.05	0.05	0.08	→	
	全国	0.3	0.28	0.33	0.33			
急性出血性結膜炎	岩手県	0	0	0	0	0	→	
	全国	0.01	0.01	0.01	0.01			
流行性角結膜炎	岩手県	0.14	0.21	0.21	0.57	0.43	→	☆
	全国	0.4	0.43	0.4	0.43			
細菌性髄膜炎	岩手県	0	0	0	0	0	→	
	全国	0.02	0.01	0.01	0.02			
無菌性髄膜炎	岩手県	0.05	0	0	0	0	→	
	全国	0.02	0.03	0.03	0.04			
マイコプラズマ肺炎	岩手県	0.42	0.53	0.16	0.16	0.11	→	☆
	全国	0.2	0.23	0.23	0.2			
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	岩手県	0	0	0.11	0	0	→	
	全国	0.01	0.01	0.03	0.03			
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	岩手県	0.58	0.68	0.84	0.53	0.63	→	☆
	全国	0.31	0.3	0.42	0.40			
インフルエンザ (入院患者) ※報告数であることに注意	岩手県	16	15	11	22	11		
	全国	402	313	265	249	206		

【流行傾向の見方】

- 無印 : ほとんど患者が発生していません
- ☆ : 患者が発生しています
- ☆☆ : 警報値を超えた地区が1～2地区あります
- ☆☆☆ : 多くの地区で警報値を超えています

全数把握対象疾患 (過去5週の動き)

※中東呼吸器症候群 (MERS) 及び鳥インフルエンザ (H7N9) が2015年1月21日より二類感染症に追加されました。

(患者発生数)

	疾病名	(週) 岩手県					累計	全国	
		8	9	10	11	12		11	累計
一類 感染症	エボラ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	クリミア・コンゴ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	痘そう	0	0	0	0	0	0	0	0
	南米出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	ペスト	0	0	0	0	0	0	0	0
	マールブルグ病	0	0	0	0	0	0	0	0
	ラッサ熱	0	0	0	0	0	0	0	0
二類	急性灰白髄炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	結核 () 内は潜在性結核感染症患者再掲	12 (8)	5 (3)	1 (0)	2 (0)	2 (0)	39 (16)	345	4522
	ジフテリア	0	0	0	0	0	0	0	0
	重症呼吸器症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	中東呼吸器症候群 (MERS)	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H5N1)	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H7N9)	0	0	0	0	0	0	0	0
三類	コレラ	0	0	0	0	0	0	0	3
	細菌性赤痢	0	0	0	0	0	0	3	25
	腸管出血性大腸菌感染症	0	0	0	0	0	1	15	206
	腸チフス	0	0	0	0	0	0	2	8
	パラチフス	0	0	0	0	0	0	1	8
四類 感染症	E型肝炎	0	0	0	2	0	2	6	41
	ウエストナイル熱 (ウエストナイル脳炎を含む)	0	0	0	0	0	0	0	0
	A型肝炎	0	0	1	0	0	1	0	66
	エキノкокクス症	0	0	0	0	0	0	0	4
	黄熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	オウム病	0	0	0	0	0	0	0	3
	オムスク出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	回帰熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	キャサヌル森林病	0	0	0	0	0	0	0	0
	Q熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	狂犬病	0	0	0	0	0	0	0	0
	コクシジオイデス症	0	0	0	0	0	0	1	1
	サル痘	0	0	0	0	0	0	0	0
	重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)	0	0	0	0	0	0	0	1
	腎症候性出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	西部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ダニ媒介脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	炭疽	0	0	0	0	0	0	0	0
	チクングニア熱	0	0	0	0	0	0	0	2
	つつが虫病	0	0	0	0	0	0	0	17
	デング熱	0	0	0	0	0	0	2	39
	東部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H5N1、H7N9を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0
	ニパウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	日本紅斑熱	0	0	0	0	0	0	0	1
	日本脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハンタウイルス肺症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	Bウイルス病	0	0	0	0	0	0	0	0
	鼻疽	0	0	0	0	0	0	0	0
	ブルセラ症	0	0	0	0	0	0	0	2
	ベネゼエラウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ヘンドラウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	発疹チフス	0	0	0	0	0	0	0	0
ポツリヌス症	0	0	0	0	0	0	0	0	
マラリア	0	0	0	0	0	0	1	2	
野兎病	0	0	0	0	0	0	0	0	
ライム病	0	0	0	0	0	0	0	0	
リッサウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	
リフトバレー熱	0	0	0	0	0	0	0	0	
類鼻疽	0	0	0	0	0	0	0	0	
レジオネラ症	0	0	0	0	0	0	20	229	
レプトスピラ症	0	0	0	0	0	0	0	1	
ロッキー山紅斑熱	0	0	0	0	0	0	0	0	

全数把握対象疾患 (続き) (過去5週の動き)

(患者発生数)

※カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症、水痘 (入院例)、播種性クリプトコックス症、薬剤耐性アシネトバクター感染症が2014年第38週より報告されることになりました。

分類	疾病名	岩手県					全国		
		8	9	10	11	12	累計	11	累計
五類 感 染 症	アメーバ赤痢	0	0	0	0	0	0	9	203
	ウイルス性肝炎 (A型肝炎及びE型肝炎を除く)	0	0	0	0	0	0	4	38
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	0	0	0	0	0	0	16	234
	急性脳炎 (ウエストナイル脳炎及び日本脳炎を除く)	0	0	0	0	1	1	3	139
	クリプトスポリジウム症	0	0	0	0	0	0	0	4
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	0	0	0	0	2	35
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	1	0	0	0	1	5	113
	後天性免疫不全症候群	0	1	0	0	0	2	14	251
	ジアルジア症	0	0	0	0	0	0	1	14
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	0	1	0	0	0	1	6	58
	侵襲性髄膜炎菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	8
	侵襲性肺炎球菌感染症	0	2	0	1	0	3	22	568
	水痘 (入院例)	0	0	0	0	0	0	2	58
	先天性風しん症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	梅毒	0	0	0	0	0	0	28	331
	播種性クリプトコックス症	0	0	0	0	0	0	2	24
	破傷風	1	0	0	0	0	1	1	14
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	0	0	0	0	0	2	11
	風しん	0	0	0	0	0	0	3	38
麻しん	0	0	0	0	0	0	0	7	
薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0	0	0	0	0	0	4	

今注目の感染症

後天性免疫不全症候群

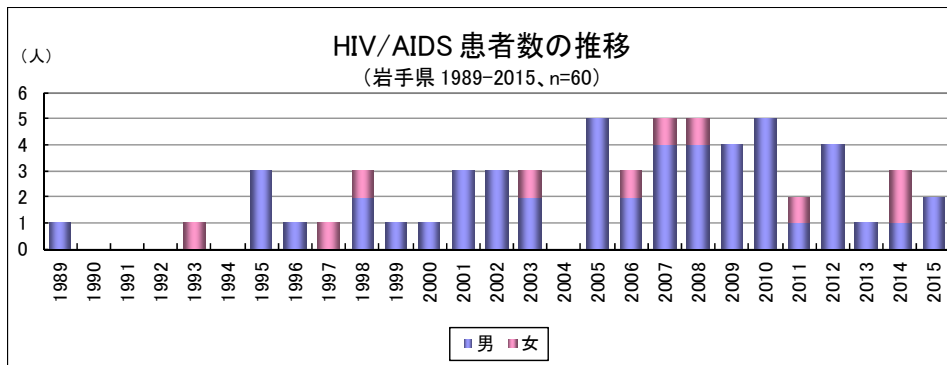
後天性免疫不全症候群(acquired immunodeficiency syndrome:AIDS,エイズ)は、ヒト免疫不全ウイルス (human immunodeficiency virus;HIV) 感染によって免疫不全が生じ、日和見感染や悪性腫瘍が合併した状態、HIV感染症は、HIVに感染した後、無症候性の時期 (無治療で約10年) の状態をいいます。

日本国内の感染動向ですが、HIV感染者は、慢性感染症で特有な症状がないので、生体内でHIV感染が成立しても受診・検査しなければ感染者として把握されず、エイズ発症により初めてHIV感染が判明する例「いきなりエイズ」が多くなっています。岩手県の報告でも、2014年の1例と2015年の2例は、エイズ発症で届出があったものです。

近年、治療薬の開発が飛躍的に進み、早期に服薬治療を受ければ免疫力を落とすことなく通常の生活を送ることが可能となってきました。治療を受けるためにも、早期にHIV感染を発見することが重要です。保健所での検査や相談はこちら→<http://www.pref.iwate.jp/iryuu/kenkou/aids/002205.html>

また、自分やパートナーへの感染を予防し、かついわれのない差別や偏見をなくすためにも、AIDS・HIV感染症に関する正確な情報を知ることは非常に重要なことです。

参考 国立感染症研究所 AIDSとは <http://www.nih.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/400-aids-intro.html>



今注目の感染症 (つづき)

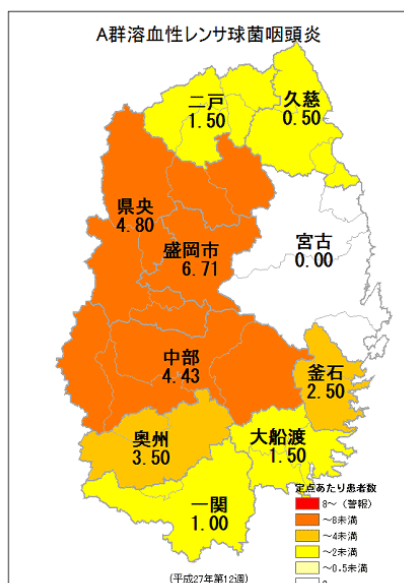
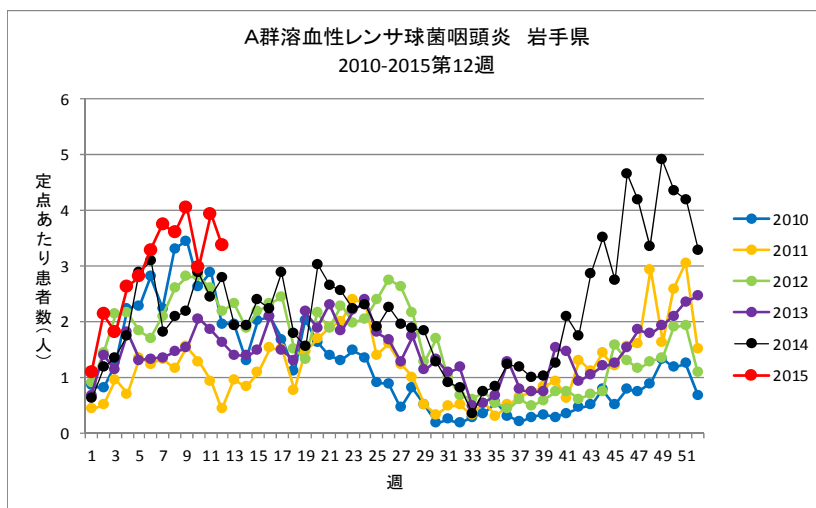
A群溶血性レンサ球菌 (溶連菌) 咽頭炎

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、A群溶血性レンサ球菌による急性咽頭炎です。潜伏期間は2～5日で、突然の発熱、咽頭炎、全身倦怠感によって発症し、体幹に発疹を伴うことがあります。感染後急性腎炎を併発することがあるので、7～10日間の抗菌剤内服が重要です。予後良好の疾患ですが、菌が産生する毒素に免疫がない場合には猩紅熱に発展する場合があります。

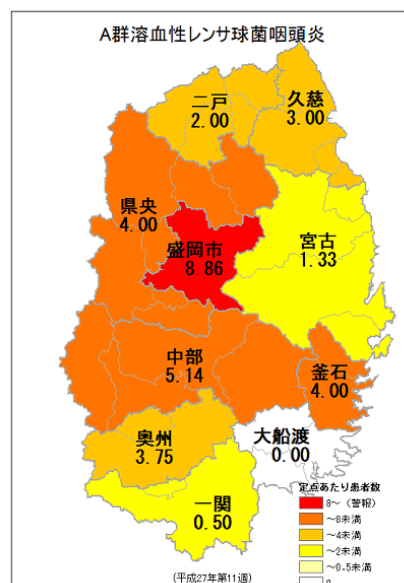
感染経路は、ヒトからヒトへの飛沫感染や接触感染が主ですが、食品を介する経口感染もあるといわれており、昨年盛岡市で食中毒事件が1件発生しました。

予防には、患者との濃厚接触を避けることが最も重要で、うがいや手洗いなどの励行、マスクを用いた咳エチケットも重要です。

岩手県での発生状況ですが、例年、冬と、春から初夏にかけて2つのピークがあります。2015年は第7週 (2月中旬) から例年に比べて患者報告が多くなっています。第11週には盛岡市で、警報値 (定点あたり患者数8人) を超えました。年齢層別では9歳以下が85%を占めており、幼稚園や小学校等では春休みに入って、学校等での感染の機会は少なくなっていますが、今後とも注意が必要です。



第12週



第11週

今注目の感染症 (つづき)

感染性胃腸炎

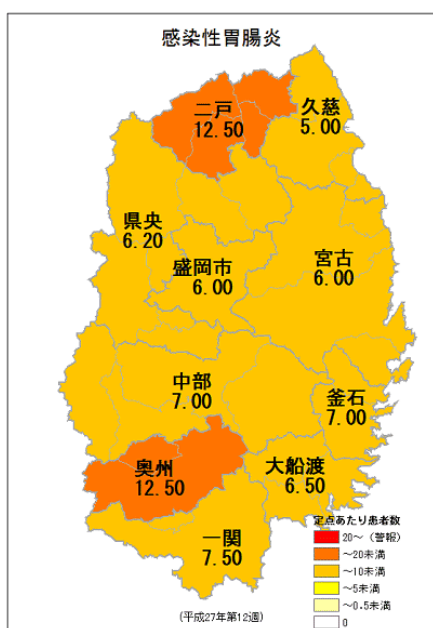
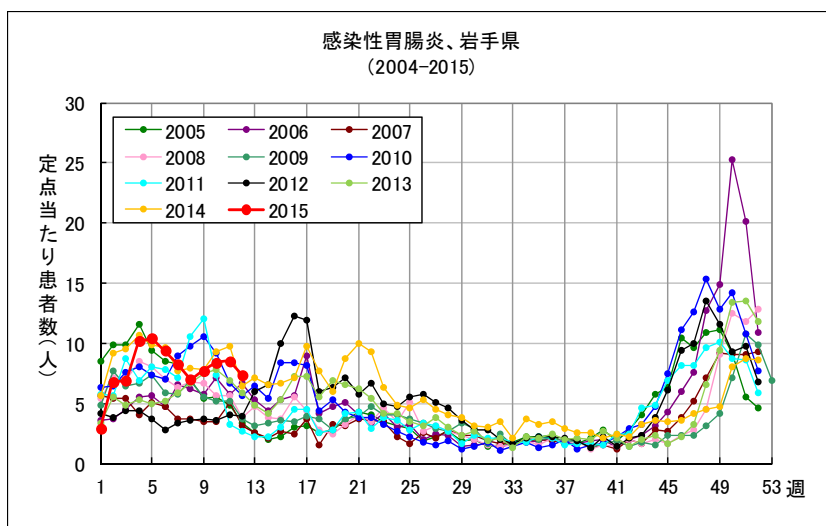
感染性胃腸炎は、細菌やウイルスなどの微生物を原因とする胃腸炎の総称です。毎年秋から冬にかけて流行し、その原因はノロウイルスやロタウイルス等のウイルスが大部分を占めています。近年の流行では、患者からは流行の前半はノロウイルスが、後半はロタウイルスが多く検出されています。

感染性胃腸炎の報告数は、例年、10月から12月にピークを迎えます。2014年は年末までは報告数の少ない状況で推移していましたが、2015年の4週目に増加しはじめ、やや報告数の多い状況が続きました。第8週には減少し例年通りの流行状況です(下図)。2014年11月からこれまでにノロウイルスなどによる集団感染事例が保育園や老人福祉施設で29例、食中毒事例が4例発生しています。

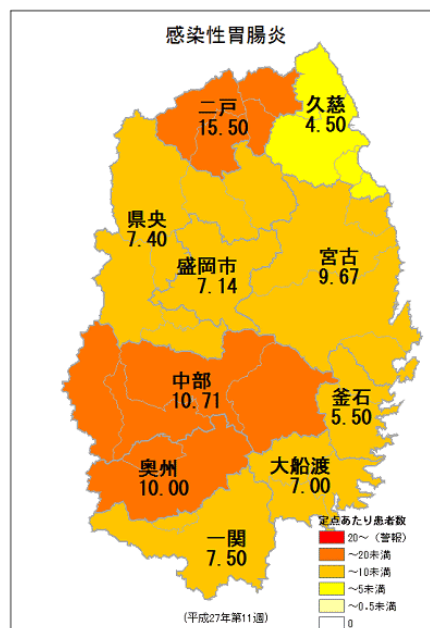
感染性胃腸炎の原因となるウイルスの感染経路は、主に経口感染です。感染力が強いため、保育園や幼稚園など集団生活の場では注意が必要です。予防には、調理前、食事前、用便後に石けんを用いた十分な手洗いと、患者の汚物の適切な処理、食品の十分な加熱(85～90℃で90秒以上)が重要です。

厚生労働省ノロウイルスに関するQ&A

http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/shokuhin/syokuchu/kanren/yobou/040204-1.html



第12週



第11週

病原体検出情報

- ・この週に病原体検出情報はありません。

集団感染情報

- ・この週には集団感染事例はありません。

医療機関からの情報

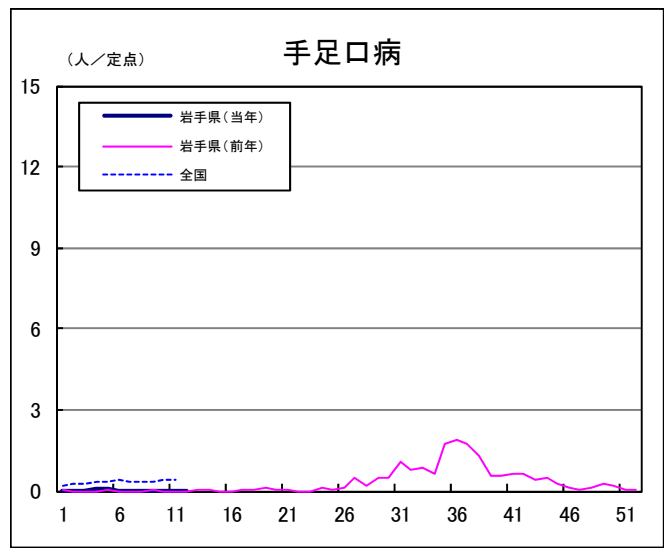
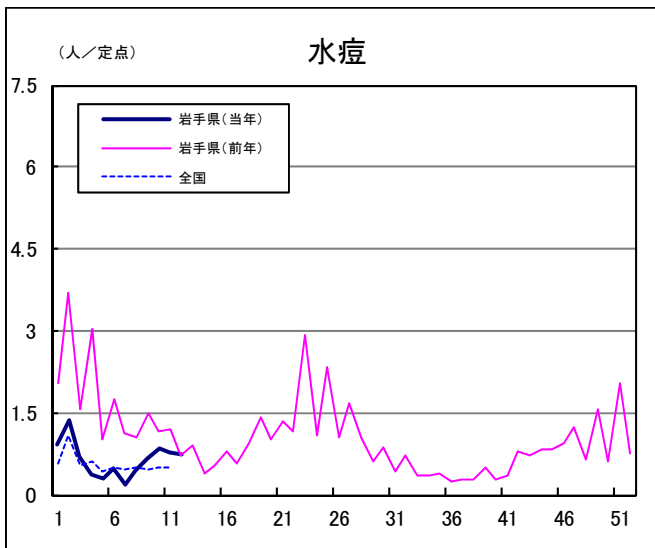
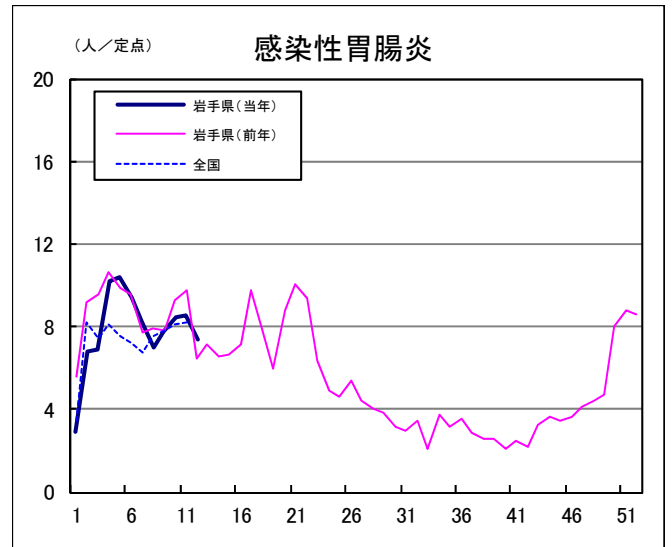
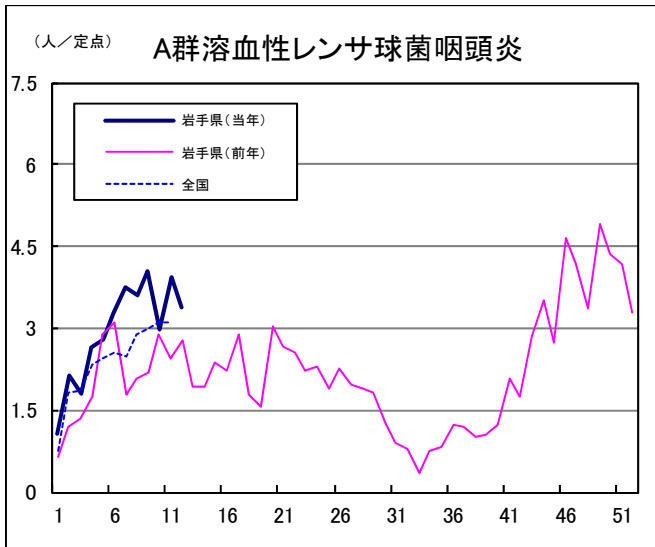
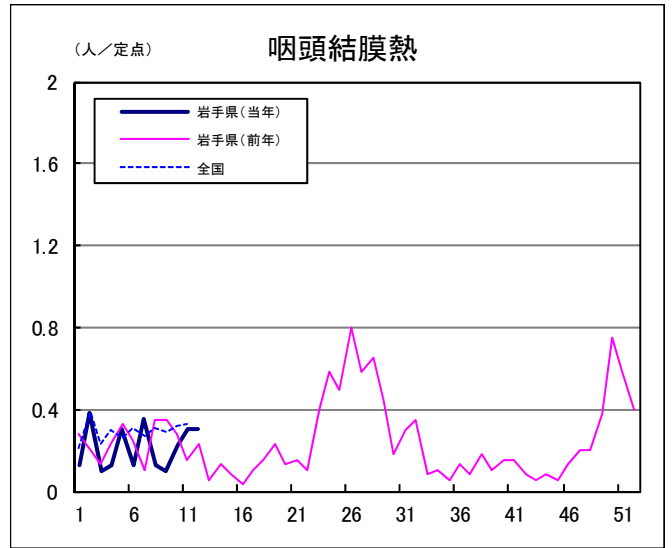
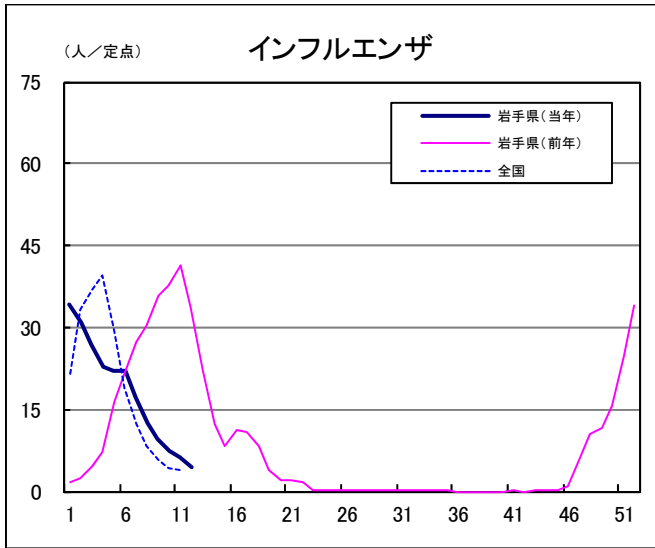
- ・この週には医療機関からの情報はありません。

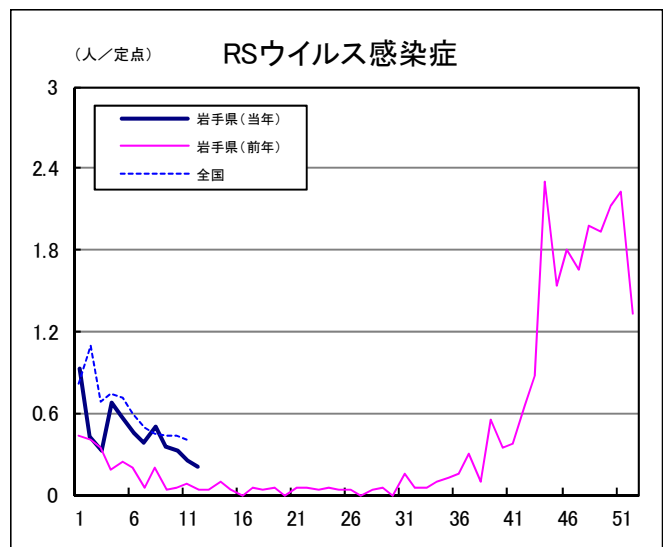
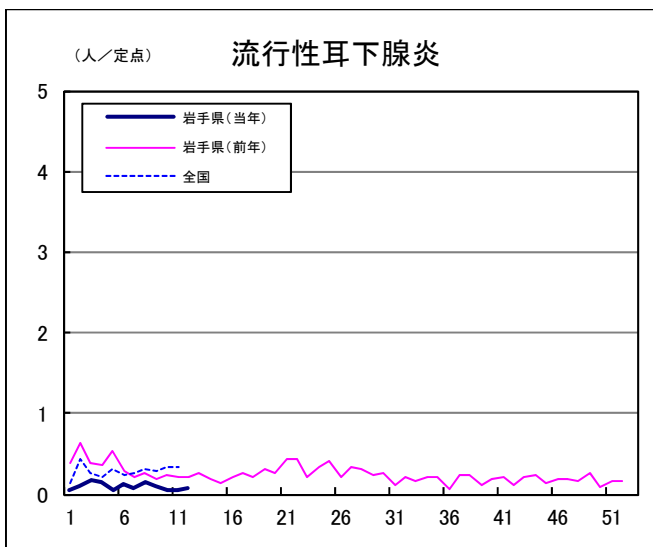
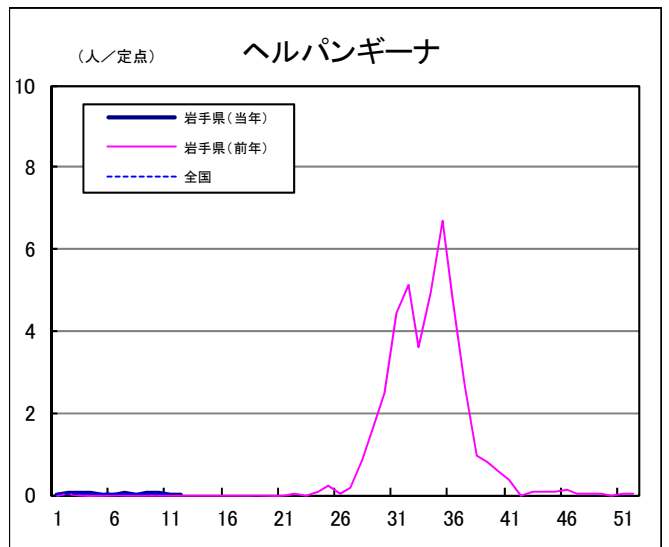
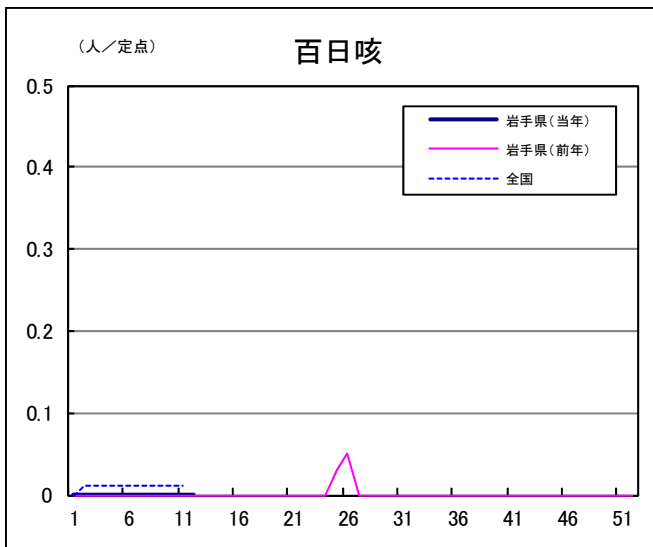
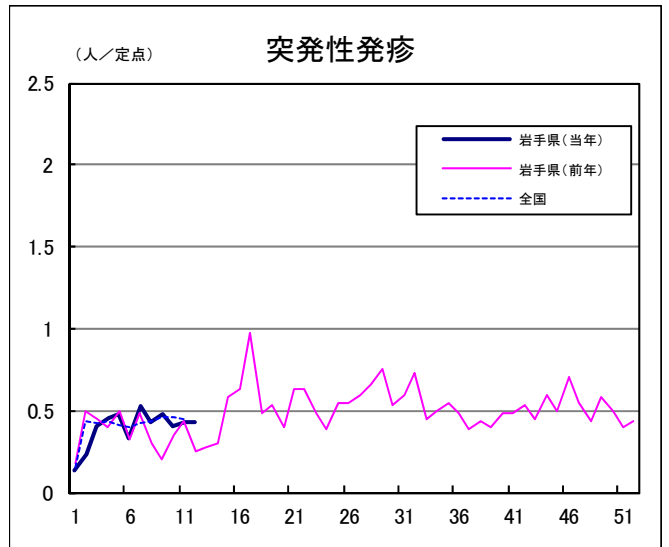
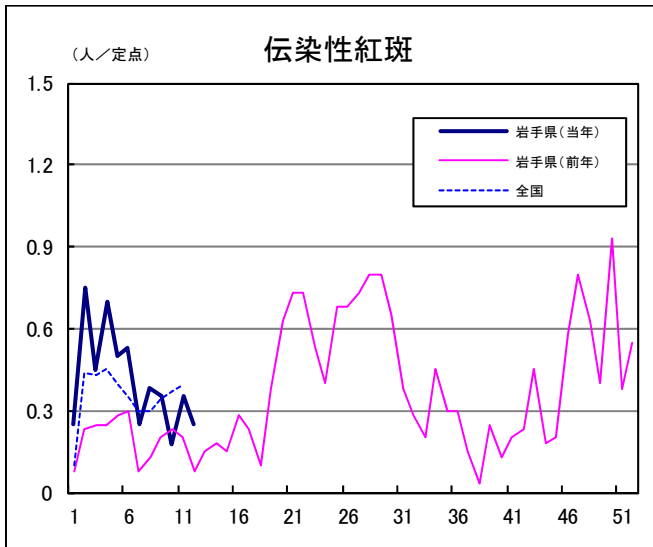
Q & A

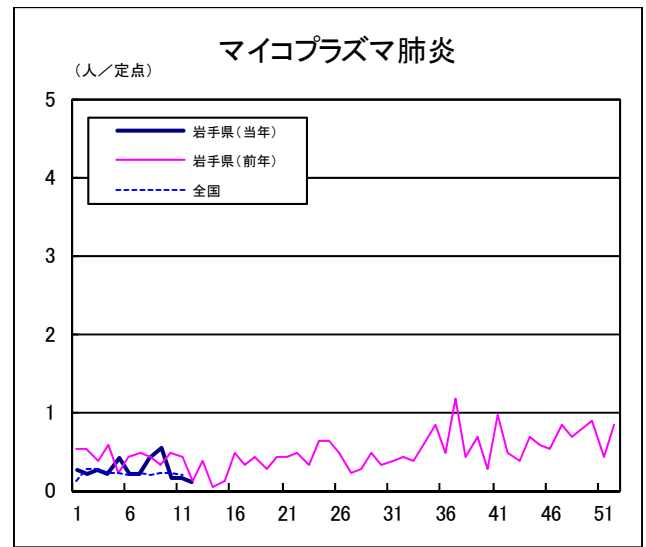
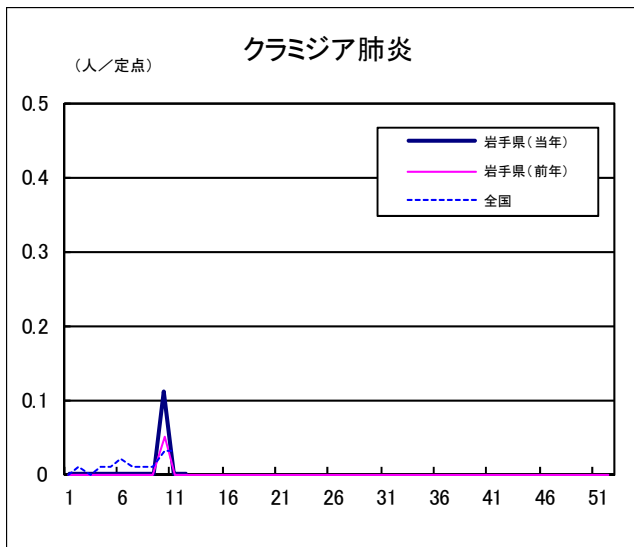
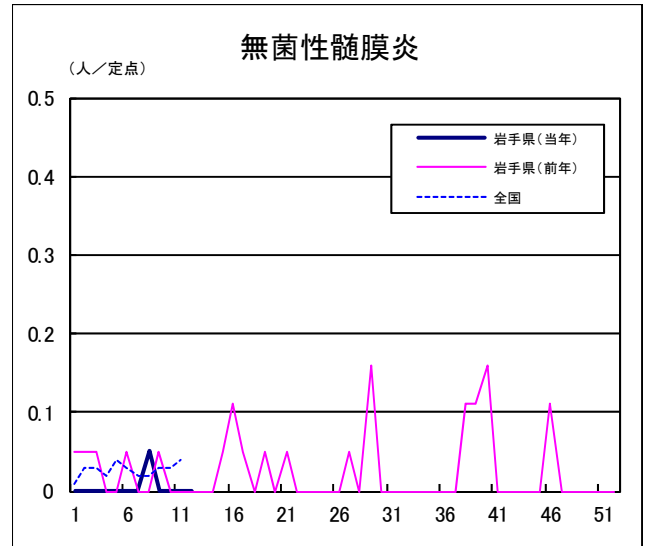
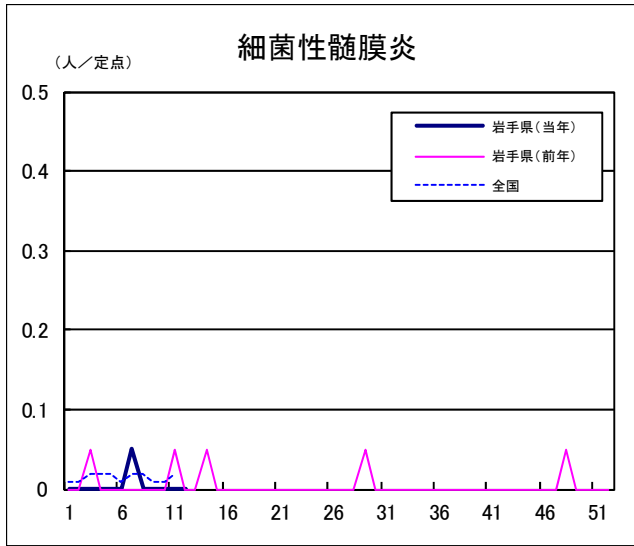
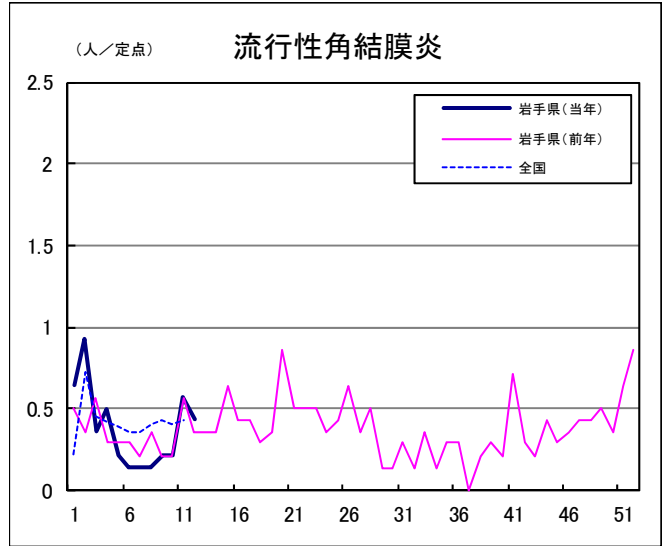
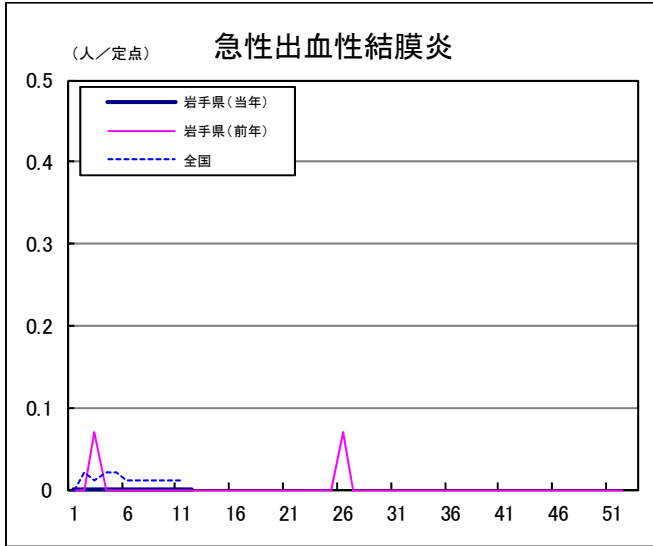
読者の皆様からのご質問にはこの欄でお答えします。

医療機関からの情報や読者の皆様からのご質問は下記の宛先までお寄せください。
岩手県感染症情報センター (岩手県環境保健研究センター保健科学部内)
〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡1-11-16
TEL:019-656-5669 (直通) FAX:019-656-5667
E-mail: CC0019@pref.iwate.jp

疾病別グラフ (定点あたり患者数の推移)







定点医療機関の数

地区	定点種別 インフル エンザ	小児科定 点	眼科定点	基幹定点
岩手県	65	40	14	19
盛岡市	11	7	3	5
県央	8	5	2	0
中部	12	7	2	4
奥州	7	4	1	2
一関	7	4	1	2
大船渡	6	4	1	1
釜石	3	2	1	1
宮古	5	3	1	1
久慈	3	2	1	1
二戸	3	2	1	2



無料です!!

岩手の感染症情報を毎週メールでお届けする

「岩手県感染症情報ウィークリーマガジン」を配信しています。

配信の登録は以下のURLからお願いします。

<http://www2.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/mailmagazine.html>

岩手県感染症週報 平成27年第12週 平成27年3月27日発行

監修：岩手県感染症発生動向調査委員会

発行：岩手県環境保健研究センター
岩手県保健福祉部医療政策室

事務局：岩手県感染症情報センター
(岩手県環境保健研究センター保健科学部内)

〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡1-11-16

TEL:019-656-5669 (直通) FAX:019-656-5667

E-mail: CC0019@pref.iwate.jp

URL: <http://www2.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/>

<岩手県感染症情報センター>

<http://www.pref.iwate.jp/iryuu/kenkou/jouhou/index.html>

<岩手県保健福祉部医療政策室>